

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.7.2	ページ	p.72	行	4行目
事業名	環境等の諸調査		河川名	余野川ダム			
府 県	大阪府	市町村	箕面市		地先	止々呂美	

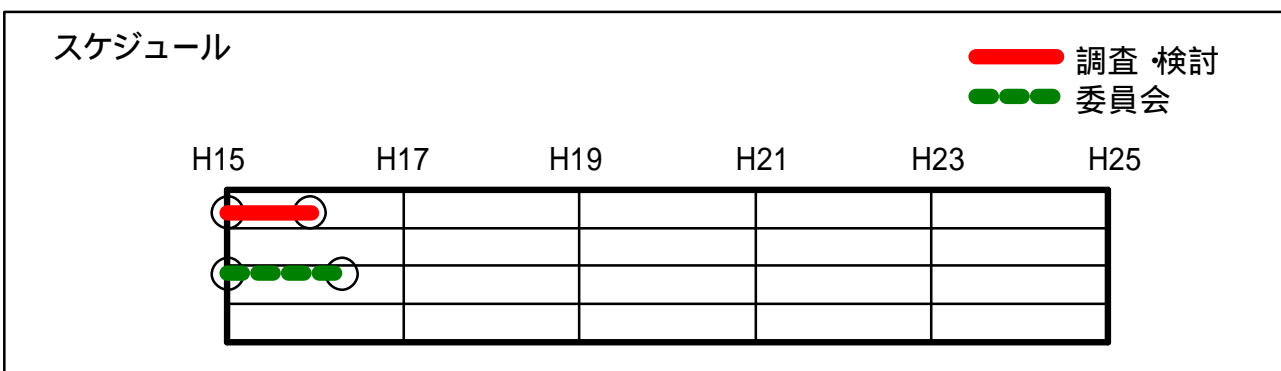
調査・検討を必要とする理由
 ダム事業地及びその周辺において、ダム事業による環境への影響予測、軽減策についての検討を現時点において検討途中の為。

調査検討の方針
 現時点において不足している環境調査を実施し、ダム事業による環境への影響を把握する。
 影響軽減策の検討においては、効果・事業費・実現性等を踏まえて、実施可能な対策を選定する。



- 具体的な調査検討内容**
- ・環境調査
 - ・環境への影響と軽減策の検討
 - ・各関係機関との調整
 - ・環境調査検討委員会の開催

- 現時点で調査・検討対象と考えられる項目
- 調 査**
- ・気象、水質等経年的継続調査
 - ・動植物の補足調査
 - ・現況河道状況調査
 - ・大気環境調査
- 検 討**
- ・水質への影響と軽減策の検討
 - ・動植物への影響と軽減策の検討
 - ・土砂移動の連続性確保の検討
 - ・工事の実施により環境に与える影響と軽減策の検討



今後の調査・検討内容(環境に関する現地調査)

1.現状の課題及び検討方針

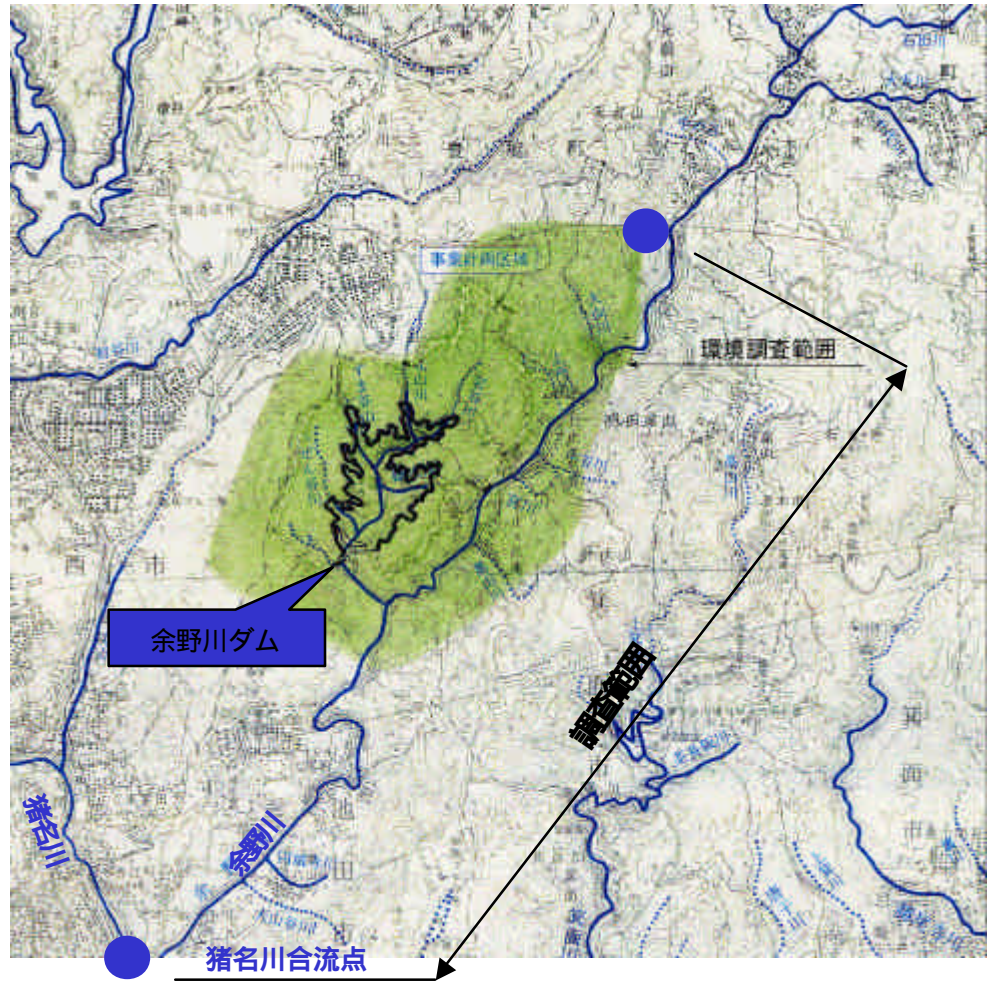
- ・自然環境の価値の評価手法が現時点で未選定な為、評価手法によっては、追加・補足調査が生じる可能性がある。
- ・調査・検討においては、「余野川ダム環境調査検討委員会」にて、専門家の指導を受けて実施する。

2.調査・検討内容

- ・気 象 :文献調査により雨量、気温について整理(経年的調査も実施)
現地調査により風向、風速を観測 工事中の大気質への影響把握に使用
- ・水 量 :流量観測(経年的調査)
正常流量検討、水質、土砂移動等の影響把握に使用
- ・水 質 :環境基準項目、富栄養化項目、地質環境及びその他項目(経年的調査)
ダム建設中及び供用時の水質への影響把握に使用
- ・動植物 :生息・生育環境の補足調査
ダム建設による動植物への影響把握およびモニタリングに使用
- ・土砂移動 :粒度分布、縦横断測量
土砂移動の連続性確保の検討に使用
- ・大気環境 :大気質、騒音、振動(夏・冬の年2回調査)
工事実施による大気環境への影響把握に使用
- ・景 観 :眺望等
ダム建設による景観への影響把握に使用
- ・活動拠点 :公園、学校等
人と自然との触れ合いの検討に使用

調査は平成15年度内に全項目実施。ただし、モニタリング等の為の経年的調査については来年度以降も引き続き実施予定

環境調査範囲



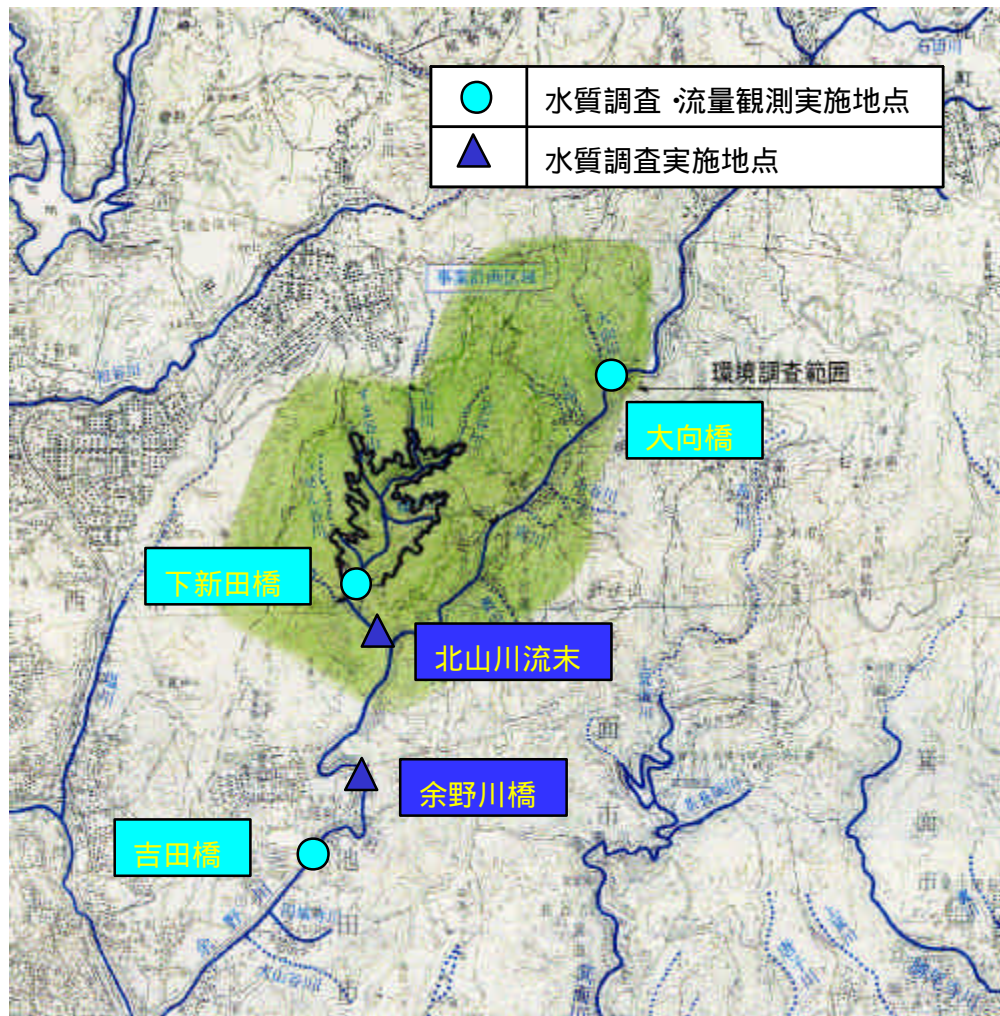
環境調査実施状況

項目	S													H													
	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
自然的状況	降水量												*	*	*	*	*										
	気温												*	*	*	*	*										
	流況																										
	風向・風速																										
環境の現況	水質												*	*	*	*	*	*									
	大気質 気象																**	**									
	騒音等																	**									
	振動												**					**									
	陸上植物	*					*		*	*				*	*		*	*									
	水生植物等							*							*			*									
	哺乳類						*					*	*	*	*	*											
	鳥類						*					*			*	*	*										
	両生・爬虫類						*						*				*	*									
	魚類						*	*						*				*									
	昆虫类等						*					*	*	*				*									
	景観													*													*

(注1) 表中において、「」印は現地調査の実施時期、「*」印は文献・資料における調査時期

(注2) 表中において、「**」印は大阪府が実施したもの

水質調査実施地点



今後の調査・検討内容(水質への影響と軽減策の検討)

1. 現状の課題及び検討方針

現状の課題

- ・水需要の精査確認を受けて決定した貯水池容量を踏まえた検討が必要。
- ・環境の低減策検討の為に、貯水池周辺の宅地開発の事業者である大阪府との調整が必要。

検討方針

- ・影響軽減策の検討にあたっては、事業費、施工、運用等を考慮した実施可能な軽減策を選定する。
- ・水質予測の際には、一庫ダムで実施している水質への影響軽減策の運用実績を踏まえた検討をする。
- ・調査・検討においては、「余野川ダム環境調査検討委員会」にて、専門家の指導を受けて実施する。

水質保全対策案



今後の調査・検討内容 (水質への影響と軽減策の検討)

2. 調査・検討内容

・水質予測

水需要の精査確認を踏まえた水質予測を行う。予測項目は、環境基準項目、富栄養化項目、地質環境及びその他項目。

・水質保全対策の検討

水質予測の結果、保全対策が必要となった場合は、貯水池内対策や流域対策について、効果を踏まえ実施可能な対策や運用方法について検討する。

・貯水池内対策

選択取水設備、深層曝気、浅層曝気、流入水バイパス、人工内湖などについて検討する。

・流域対策

流域対策として、貯水池周辺の宅地開発区域からの流入負荷対策について、大阪府と連絡調整を図る。

・ダム事業による水質への影響と軽減策による効果を経済性から検討

今後の調査・検討内容(動植物への影響と軽減策の検討)

1.現状の課題及び検討方針

現状の課題

- ・自然環境の価値を考慮した経済性を検討する手法が現時点にて未選定。
- ・環境の低減策検討の為に、貯水池周辺の宅地開発の事業者である大阪府との調整が必要。

検討方針

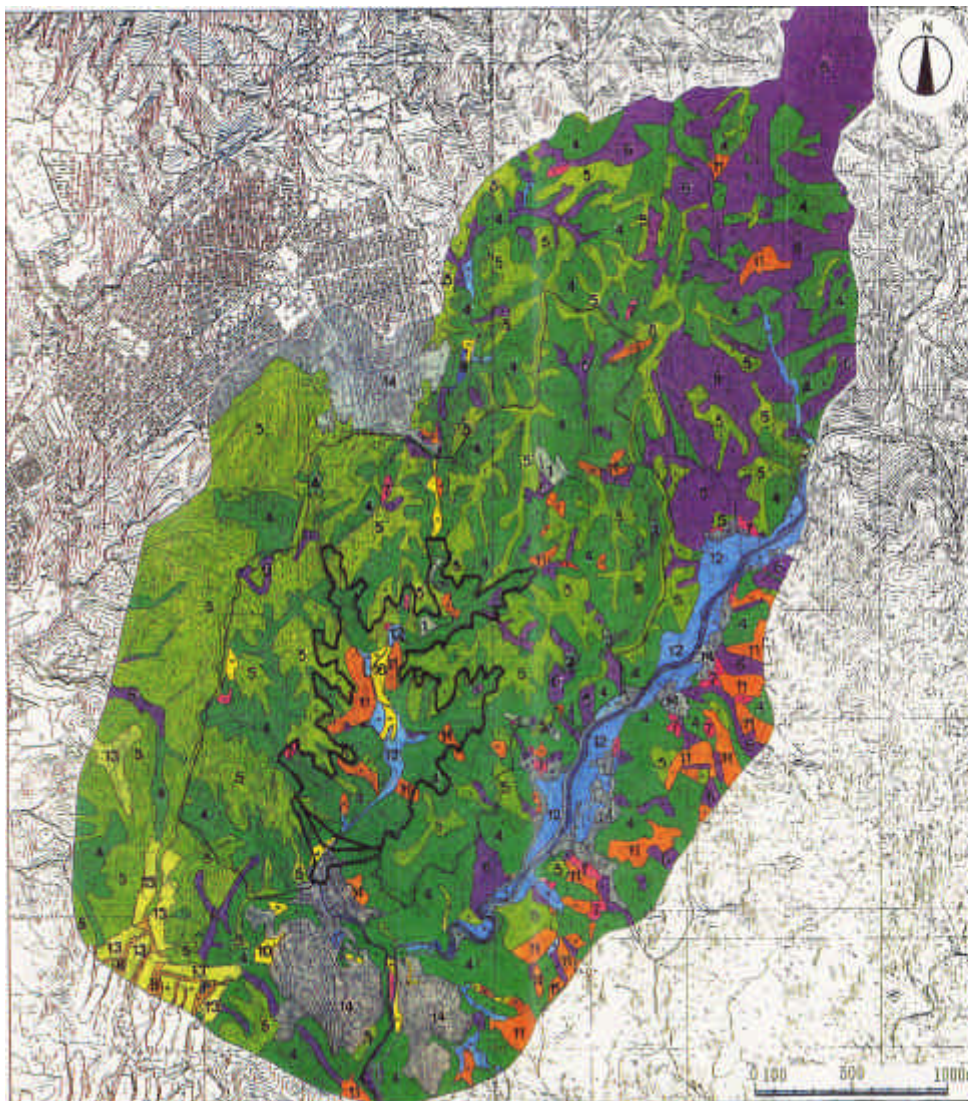
- ・事業区域および下流河川において動植物に与える影響と軽減策について検討する。
- ・調査・検討においては、「余野川ダム環境調査検討委員会」にて、専門家の指導を受けて実施する。

今後の調査・検討内容(動植物への影響と軽減策の検討)

2.調査・検討内容

- ・現在ある動植物の生育、生息状況を現地調査結果を基に整理
- ・ダム事業による動植物への影響を整理
- ・影響低減策として下記検討等を行う
 - 改変地の表土、樹木、種子を用いた植生回復
 - ため池等の湿地環境の創出
 - 事業区域周辺の樹林との連続性の確保
- ・自然環境の価値を考慮した経済性を評価する手法を選定
- ・選定した手法を用いて、ダム事業による動植物への影響と軽減策による効果を経済性から検討
- ・事業区域周辺の生態系の保全に向けて大阪府と連絡・調整を行うなど関係機関との連携を図る。具体的な連絡・調整項目は下記の通り。
 - 環境保全の連携
 - コリドーの確保
 - オオタカ保全区を核とした保全策
 - 貯水池への流入負荷対策
 - 大阪府の「水と緑の健康都市オオタカ調査委員会」との連携

陸上植物の植生図



凡 例	
A、森林植生	
1	ケヤキ群落
2	ミゾノバーハンノキ群落
3	アラカシ群落
4	コナラクヌギ群落
5	モチツツジ・アカマツ群落
6	スギ・ヒノキ植林
7	モウソクチク・マダケ林
8	クロマツ植林
B、草本植生	
9	ヨシクラス
10	ススキ群落
C、耕植植生	
11	果樹園
12	耕地
13	人工草地
D、その他	
14	住宅地及び人工裸地
15	自然裸地
16	開放水域

改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック・レッドリスト (環境省編)及び大阪府における保護上重要な野生生物 - 大阪府レッドデータブックに指定されている種(注目すべき種)は次のとおりである。

注目すべき種

- 哺乳類・・・ニホンリス、キツネ等 4種
- 鳥類・・・オオタカ、カワセミ等 10種
- 両生類・・・ニホンヒキガエル、モリアオガエル等 3種
- 爬虫類・・・アオダイショウ、イシガメ 2種
- 昆虫類・・・オオムラサキ、ゲンバイトンボ等 16種
- 魚類・・・タカハヤ、ドンコ等 4種
- 植物・・・エビネ、オオヒキヨモギ 2種

今後の調査・検討内容 (環境に配慮した分派堰の見直し)**1.現状の課題及び検討方針**現状の課題

- ・常時、洪水時における分派堰構造および管理方法を環境・治水・利水全ての面から検討が必要。
- ・余野川の洪水到達時間が短い為、ゲート操作を伴った運用が実行可能かの検討が必要。

検討方針

- ・土砂移動の連続性を図る。
- ・魚類等の遡上・降下に配慮する。
- ・現況河川の流況に近づける。(攪乱機能の確保)
- ・周辺景観との調和を図る。
- ・影響軽減策の検討においては、効果・事業費・実現性等を踏まえて、実施可能な対策を選定する。
- ・調査・検討においては、「余野川ダム環境調査検討委員会」にて、専門家の指導を受けて実施する。

2.調査・検討内容

分派堰への流入土砂の管理について下記検討を行う。

- 分派堰への流入土砂を自然流下可能かの検討
- 人為的な搬出方法の検討
- 土砂の搬出先の検討

・魚類等の遡上や降下のため、分派堰に設置する魚道の検討を行う。

検討項目は、下記の通り。

- 対象魚種の選定
- 魚道形式の検討
- 魚道構造の検討

- ・攪乱機能の増大を図るため、ゲート等による運用の検討を行う。
- ・景観に配慮した分派堰構造の検討を行う。